

ごあいさつ

いつも阪神電車をご利用いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止等重点措置が去る3月21日にすべての地域において終了し、社会・経済活動が回復しつつあります。これまでの2年以上の長きにわたる間、当社の感染拡大防止の取組みに対するお客さまのご理解とご協力により、安定した輸送サービスの提供を継続できましたことを深く感謝申し上げます。引き続き、お客さまや従業員の感染拡大防止に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



阪神電気鉄道株式会社
代表取締役・社長

秦 雅夫

さて、当社は、その経営理念に「安心・快適」そして「夢・感動」を掲げており、常にお客さまの安心の最も重要な基盤である安全を最優先とした鉄道事業の運営に重きを置いてまいりました。そして、2021年度も引き続き「責任事故ゼロの継続」を安全目標に掲げ、次のとおり、ハード・ソフト両面にわたり安全性の向上に取り組みました。

まず、神戸三宮駅のホームドアについては、昨年度の1、3番線の設置に続き、去る3月27日には2番線への設置が完了し、これにより同駅すべてのホームへの設置が完了しました。また、大阪梅田駅では、駅改良工事を進める中で新1番線にホームドアを設置し、2021年10月30日に供用を開始しました。このほか、淀川橋梁の改築、高架橋の耐震補強、車両の新造・改良などを着実に進め、運転保安の向上に努めました。

また、2021年度は安全重点施策を『ヒューマンエラーに起因する事故の芽事象の削減』、『自然災害発生時等の異常時における対応力の強化』、『知識と技能の着実な継承』の3項目とし、これらを中心に種々取り組みました。特に、自然災害への対応につきましては、2021年4月に「防災の基本方針」を制定し、防災・減災の意識を高め、事業継続計画に基づく取組みを進めました。

一方、他社線において列車内での傷害事件が複数回発生し、鉄道事業者に新たな対応が求められています。このことから、2022年度は従来の自然災害に係る異常時対応に鉄道テロ対応を加えて各種取組みを進めてまいります。

このような取組みを通じて、引き続き、お客さまに安心してご利用いただけるよう全役員・社員が一丸となって輸送の安全確保に注力してまいります。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4の定めに基づき、当社の安全確保に関する取組みや鉄道の適切なお利用について皆さまにご理解いただくために公表するものです。ぜひ本報告書をご一読いただき、ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

2022年7月